


シスプラチン+ペメトレキセド+ベバシズマブの治療を受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。初日の点滴は下記の他に腎障害軽減のため治療前後に電解質輸液があります（計5時間30分【3回目以降】のスケジュールです）。

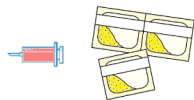
お薬の名前	1 日目	2～21 日目
吐き気止め	 30 分	お休み
ベバシズマブ (ベバシズマブ) mg	 初回は90分、 2回目60分、 3回目以降は30分	お休み
ペメトレキセド (ペメトレキセド) mg	 10 分	お休み
シスプラチン (シスプラチン) mg	 60 分	お休み

【副作用軽減のために使用のお薬】

ビタミンB₁₂（フレスミン注）：初回投与7日前に投与をします。

葉酸（パンピタン）：初回投与7日以上前より服用を開始します。

※注射とは別に吐き気止めの内服薬があります。初日のアプレビタント125mgは抗がん剤の始まる1時間前に内服し、2・3日目のアプレビタント80mgは朝食後に内服します。2・3・4日目のデカドロンは朝・昼食後に内服します。



★起こりやすい副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

＜血液検査からわかる副作用＞

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後10～14日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！ 白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などがおこりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

腎機能障害

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなると、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。お薬の排泄を促すために、たくさんの点滴をして腎臓に尿をたくさん作らせることが大切です。

⇒2・3日目はOS-1かボカリスエット1Lを含む1.5L以上の水分を必ず取ってください。



＜ご自身でわかる副作用＞

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療時期に合った吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

倦怠感

治療開始2、3日後に症状があらわれることがあります。また、治療が継続することで徐々に出てくるともあります。症状が強い場合には、お薬で対応することがあります。

⇒無理に動かさず、安静にして様子をみて下さい。

下痢

1日3回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、下痢止めを服用して下さい。下痢止めを2回服用しても、よくなる場合は、病院への連絡が必要です。

⇒脱水を防ぐために、下痢または軟便の時は、水分をしっかりととりましょう。

皮疹

末梢神経障害

治療回数が増えると徐々にしびれが出てくる場合があります。治療を終えても、しびれが回復するまで時間がかかります。

⇒日常生活に支障が出る時は、主治医に相談して下さい。

聴覚障害

高血圧

血圧が上がる場合があります。血圧が高いと頭痛をとまなうことがあるので、場合によっては、血圧を下げる薬を使うことがあります。

⇒血圧は、毎日決まった時間に測定し、記録をつけていきましょう。

出血

鼻や歯肉、膣などの粘膜から出血することがあります。また、患部から出血することもあります。10～15分たっても血が止まらない場合は病院へ連絡して下さい。

創傷治癒遅延（傷が治りにくい）

★すぐに連絡をいただきたい副作用



- ★「尿量が少なくなる」、「ほとんど尿が出ない」、「一時的に尿量が多くなる」、「むくみ」、「体がだるい」（急性腎不全）
- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）
- ★「ふるえ」、「悪寒」、「38℃以上の発熱」、「肌のほてり」、「紅潮」（敗血症）
- ★「急な激しい腹痛」、「お腹を押した際に痛む」、「発熱」（消化管穿孔）
- ★「胸の痛み」、「息苦しくなる」、「片方の足の急激な痛みや腫れ」（血栓・塞栓症）

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。